

博士論文（要約）

論文題目 南米ペルー、ワヌコ盆地の  
紀元前二千年紀の社会動態

氏名 金崎 由布子

## 目次

第1章. 研究の背景と目的.....	1
1.1. 中央アンデス地域の地理と編年.....	1
1.1.1. 中央アンデス地域の自然環境と地域区分.....	1
1.1.2. アンデス文明の編年.....	4
1.2. 紀元前二千年紀前後のアンデス社会.....	5
1.3. ワヌコ盆地の特徴.....	6
1.4. 課題.....	8
1.5. 研究の目的と方法.....	8
1.6. 本論文の構成.....	9
第2章. 先行研究の課題と本研究の方法論.....	10
2.1. 先行研究.....	10
2.1.1. 編年研究と伝播論.....	10
2.1.2. 「熱帯林文化」の拡散と「ユンガ伝統」.....	13
2.1.3. 「神殿更新」説と同等政体相互作用説.....	14
2.1.4. 小括.....	16
2.2. 課題.....	17
2.2.1. 編年.....	17
2.2.2. 土器スタイル論.....	18
2.3. 本研究の編年システム.....	19
2.3.1. 型式学的手法・層位学的手法・理化学的手法.....	19
2.3.2. 「時期」のシステムと段階編年.....	23
2.4. 系統学的スタイル論.....	24
第3章. 基壇建築の通時的変化.....	26
3.1. ワヌコ盆地の環境と先行調査.....	26
3.2. 2016年～2019年の新たな考古学調査.....	32
3.3. 2016年、2018年コトシュ遺跡再発掘調査の成果.....	34
3.3.1. 2016年、2018年調査の層位と建築.....	34
3.3.2. 1960年代調査成果との統合.....	39
3.4. 2017年ハンカオ遺跡発掘調査の成果.....	45
3.5. 2019年ビチャイコト遺跡発掘調査の成果.....	52
3.6. 前二千年紀ワヌコ盆地の基壇建築の通時的変化.....	61
3.6.1. 各遺跡の建築シークエンスのまとめと解釈.....	61
3.6.2. 建築スタイルおよび建築の更新方法の通時的変化.....	65
第4章. 土器の通時的変化.....	67

4.1.	分析方法	67
4.2.	各遺跡の土器	72
4.2.1.	ハンカオ遺跡	72
4.2.2.	コトシュ遺跡 (2016年・2018年調査)	104
4.2.3.	ビチャイコト遺跡	109
4.2.4.	コトシュ遺跡 (1963年報告書図版)	113
4.2.5.	シヤコト遺跡	117
4.3.	器種の消長	128
4.4.	文様の変化	133
4.4.1.	無頸壺の時期別の文様類型	133
4.4.2.	丸底鉢の時期別の文様類型	136
4.4.3.	凸底鉢の時期別の文様類型	136
4.4.4.	人面文様鉢の時期別の文様類型	139
4.4.5.	ワイラヒルカ期・コトシュ期の土器文様の通時的変化	140
4.5.	外部地域の土器	144
4.5.1.	北部中央山地・中央高原の土器	144
4.5.2.	東斜面・熱帯低地の土器	148
4.5.3.	ボトル形土器	150
4.5.4.	搬入土器	153
4.6.	前二千年紀ワヌコ盆地の土器スタイルの通時的変化	154
4.6.1.	器種組成・文様系統の変容プロセス	154
4.6.2.	小括	157
第5章.	各遺跡の年代とワヌコ盆地の新たな編年	161
5.1.	分析方法	161
5.1.1.	分析の目的と方法	161
5.1.2.	分析手順	162
5.2.	ハンカオ遺跡の年代	163
5.2.1.	資料と分析モデル	163
5.2.2.	結果	169
5.3.	コトシュ遺跡の年代	172
5.3.1.	資料と分析モデル	172
5.3.2.	結果	175
5.4.	前二千年紀ワヌコ盆地の新たな編年と推定年代	178
5.4.1.	土器編年の各時期の年代の検討	178
5.4.2.	モデル年代にもとづく各細分時期の年代の検討	180
5.5.	<sup>14</sup> C年代の地域間比較	181

5.5.1.	北部中央地域の各遺跡との比較 .....	181
5.5.2.	中央高原の各遺跡との比較.....	185
5.5.3.	広域地域間での比較.....	187
5.6.	ワヌコ盆地の新編年と周辺地域との関係 .....	189
5.6.1.	ワヌコ盆地の新たな編年 .....	189
5.6.2.	北部中央山地の各地の編年との対応関係.....	190
第6章.	遺跡利用と地域間関係の通時的変化.....	192
6.1.	ワヌコ盆地の前二千年紀の遺跡分布と利用期間 .....	192
6.1.1.	ワヌコ盆地の各時期の遺跡分布 .....	192
6.1.2.	遺跡規模と立地のパターン .....	199
6.1.3.	各遺跡の利用時期と利用期間 .....	200
6.2.	ワヌコ盆地の遺跡利用の通時的変化 .....	202
6.2.1.	各時期の基壇建築での活動内容 .....	202
6.2.2.	埋葬と副葬品.....	204
6.3.	前二千年紀のワヌコ盆地の生業および周辺地域との関係 .....	209
6.3.1.	ワヌコ盆地の前二千年紀の生業 .....	209
6.3.2.	北部中央山地・中央高原の前二千年紀の生業 .....	212
6.3.3.	希少財の交易.....	214
第7章.	紀元前二千年紀におけるワヌコ盆地の社会動態 .....	217
7.1.	ミト期最終期からワイラヒルカ期前葉（紀元前 2000 年-紀元前 1600 年頃） ..	217
7.2.	ワイラヒルカ期中葉（紀元前 1600 年-紀元前 1300 年頃） .....	221
7.3.	ワイラヒルカ期後葉（紀元前 1300 年頃-紀元前 1000 年頃） .....	223
7.4.	コトシュ期（紀元前 1000 年頃-紀元前 800 年頃） .....	225
7.5.	前二千年紀における山地-熱帯低地の関係と地域社会の変動 .....	227
第8章.	結論.....	229

## 図目次

図 1-1	ペルーの地形と地域区分	2
図 1-2	中央アンデスの環境区分 (関 2010:図 2 より抜粋)	4
図 1-3	ワヌコ盆地の位置付けと本論文で扱う主要な遺跡	7
図 1-4	ワヌコ盆地と周辺地域の高度と植生 (Izumi and Sono 1963:fig.6 より一部改変)	7
図 2-1	ワヌコ盆地ワイラヒルカ期・コトシュ期の土器	11
図 2-2	メガーズらによる土器伝播モデル (Meggers et al. 1965:fig.108 より一部改変)	13
図 2-3	「建築フェーズ法」による“均された”利用期間の構築の概念図	18
図 2-4	セリエーション (組列化) の分類 (O'Brien and Lyman 1999:fig.3-1 より一部改変)	20
図 2-5	系統樹思考と分類思考の概念図(三中 2006:123 より抜粋)	21
図 2-6	土器スタイル分析に対する「系統年代」概念の適応例	25
図 3-1	ワヌコ盆地の地理的範囲	27
図 3-2	本章で言及するワヌコ盆地の主要な遺跡	29
図 3-3	これまでに発掘調査が行われた前二千年紀の利用のあるワヌコ盆地の各遺跡	30
図 3-4	コトシュ遺跡 (Izumi and Terada 1972:figure 2 より一部改変)	31
図 3-5	2016-2019 年に発掘調査が行われたワヌコ盆地の各遺跡	33
図 3-6	上段:コトシュ遺跡 2016 年調査遺構平面図・下段:同断面図(a)-(a')	35
図 3-7	ミト期の建築	37
図 3-8	ワイラヒルカ期の建築その 1	37
図 3-9	ワイラヒルカ期の建築その 2	38
図 3-10	ワイラヒルカ期の建築その 3	38
図 3-11	コトシュ期の建築	39
図 3-12	コトシュ遺跡の各時期の建築復元図	40
図 3-13	ミト期の遺構模式図	41
図 3-14	ワイラヒルカ期の遺構模式図	42
図 3-15	コトシュ期の遺構模式図	43
図 3-16	ハンカオ遺跡発掘エリア (Tsurumi and Acuña 2018:fig.1 より一部改変)	46
図 3-17	ハンカオ遺跡 JCA 発掘区 (Kanezaki et al. i.p. Supplemental Figure 2 より抜粋)	47
図 3-18	JCA 区発掘後写真 (Tsurumi and Acuña 2018:p.16, p.20 より一部改変)	48
図 3-19	上段: E1S1-5 断面図・下段: E1N2-6 断面図 (Tsurumi and Acuña 2018:fig.5-7 をもとに作成)	49
図 3-20	土器にもとづく層位の色分け図	51
図 3-21	ビチャイコト遺跡航空写真およびドローン撮影写真	53
図 3-22	ビチャイコト遺跡 A マウンド遺構平面図および建築模式図	54
図 3-23	ビチャイコト遺跡発掘終了時ドローン空撮写真	55

図 3-24	(上段) ピチャイコト遺跡層位断面図(a)-(a') (中段) 同(b)-(b') (下段) 同(c)-(c') ..	56
図 3-25	VCA-A 区 M02・M03 空撮写真.....	57
図 3-26	VCA-A 区 M02・M03 (北側から撮影) .....	57
図 3-27	VCA-B1 区方形部屋空撮写真.....	58
図 3-28	VCA-B1 区 5 層の円形連結炉.....	59
図 3-29	VCA-B2 区石壁群空撮写真 .....	60
図 3-30	シヤコト遺跡平面図.....	62
図 3-31	シヤコト遺跡断面図 (Izumi et al. 1972:fig.10 より抜粋) .....	63
図 3-32	ワイラヒルカ遺跡レベル E 平面・断面図 (Onuki and Matsumoto 2020b:fig.B.4 より抜粋) .....	64
図 3-33	ワイラヒルカ遺跡レベル D 平面・断面図(Onuki and Matsumoto 2020b:fig.B.3 より抜粋) .....	64
図 3-34	ワイラヒルカ遺跡レベル C 平面・断面図(Onuki and Matsumoto 2020b:fig.B.2 より抜粋) .....	65
図 4-1	コトシュ遺跡の土器タイプの通時的変化 (Izumi and Terada 1972:Chart 10 より一部改変) .....	68
図 4-2	コトシュ遺跡土器出土地点 .....	71
図 4-3	ピチャイコト遺跡土器出土層.....	71
図 4-4	ハンカオ遺跡 WJ-I 土器写真.....	72
図 4-5	ハンカオ遺跡 E1S2:5 層出土土器実測図.....	73
図 4-6	ハンカオ遺跡 E1N4:9 層出土土器実測図.....	74
図 4-7	ハンカオ遺跡 WJ-II 土器写真.....	75
図 4-8	ハンカオ遺跡 E1S2:4 層出土土器実測図 (無文) .....	76
図 4-9	ハンカオ遺跡 E1S2:4 層出土土器実測図 (有文) .....	77
図 4-10	ハンカオ遺跡 E1N4:8 層出土土器実測図 (無文) .....	78
図 4-11	ハンカオ遺跡 E1N4:8 層出土土器実測図 (有文) .....	78
図 4-12	ハンカオ遺跡 WJ-III 土器写真.....	79
図 4-13	ハンカオ遺跡 E1S2:3 層出土土器実測図 (無文) .....	80
図 4-14	ハンカオ遺跡 E1S2:3 層出土土器実測図 (有文) その 1 .....	81
図 4-15	ハンカオ遺跡 E1S2:3 層出土土器実測図 (有文) その 2 .....	82
図 4-16	ハンカオ遺跡 E1N4:7 層出土土器実測図 (無文) .....	83
図 4-17	ハンカオ遺跡 E1N4:7 層出土土器実測図 (有文) .....	84
図 4-18	ハンカオ遺跡 WJ-IV 土器写真その 1 .....	86
図 4-19	ハンカオ遺跡 WJ-IV 土器写真その 2 .....	87
図 4-20	ハンカオ遺跡 WJ-IV 土器写真その 3 .....	88
図 4-21	ハンカオ遺跡 E1S2:2 層出土土器実測図 (無文) .....	89

図 4-22	ハンカオ遺跡 E1S2:2 層出土土器実測図 (有文) .....	90
図 4-23	ハンカオ遺跡 E1S4:2-3 層出土土器実測図 (無文) .....	91
図 4-24	ハンカオ遺跡 E1S4:2-3 層出土土器実測図 (有文) その 1 .....	92
図 4-25	ハンカオ遺跡 E1S4:2-3 層出土土器実測図 (有文) その 2 .....	93
図 4-26	ハンカオ遺跡 WJ-V 土器写真その 1 .....	94
図 4-27	ハンカオ遺跡 WJ-V 土器写真その 2 .....	95
図 4-28	ハンカオ遺跡 E1S2-3:0-1 層出土土器実測図 (無文) その 1 .....	96
図 4-29	ハンカオ遺跡 E1S2-3:0-1 層出土土器実測図 (無文) その 2 .....	97
図 4-30	ハンカオ遺跡 E1S2-3:0-1 層出土土器実測図 (有文) その 1 .....	98
図 4-31	ハンカオ遺跡 E1S2-3:0-1 層出土土器実測図 (有文) その 2 .....	99
図 4-32	ハンカオ遺跡 E1N4-5:5-6 層出土土器実測図 .....	100
図 4-33	ハンカオ遺跡 E1N4-5:4 層出土土器実測図 .....	101
図 4-34	ハンカオ遺跡 KT-I 土器写真 .....	102
図 4-35	ハンカオ遺跡 E1S4-5:2 層出土土器実測図 .....	103
図 4-36	ハンカオ遺跡 E1N4-5: 3 層出土土器実測図 .....	104
図 4-37	コトシュ遺跡 G11N7:1 層出土土器実測図 .....	105
図 4-38	コトシュ遺跡 G11N6:1-2 層・G10N7:2 層出土土器実測図 .....	106
図 4-39	コトシュ遺跡 G10N6:2 層出土土器実測図 .....	107
図 4-40	コトシュ遺跡 G11N5:2-5 層 (G-Fogón 関連) 出土土器実測図 .....	108
図 4-41	ビチャイコト遺跡 WJ-IV 土器写真 .....	110
図 4-42	ビチャイコト遺跡 B4-6E9:5 層出土土器実測図 .....	111
図 4-43	ビチャイコト遺跡 A18E9, B2-3E6:4 層出土土器実測図 .....	112
図 4-44	コトシュ遺跡 Construction H 出土土器図版 .....	114
図 4-45	コトシュ遺跡 Construction G 出土土器図版 .....	115
図 4-46	コトシュ遺跡 Construction F 出土土器図版 .....	116
図 4-47	シヤコト遺跡 14-13 層出土土器図版その 1 .....	118
図 4-48	シヤコト遺跡 14-13 層出土土器図版その 2 .....	119
図 4-49	シヤコト遺跡 14-13 層出土土器図版その 3 .....	120
図 4-50	シヤコト遺跡 14-13 層出土土器図版その 4 .....	121
図 4-51	シヤコト遺跡 Tm4 副葬土器図版 .....	122
図 4-52	シヤコト遺跡 9-11 層出土土器図版 .....	123
図 4-53	各フェーズの典型的な土器タイプその 1 (WJ-I から WJ-III) .....	125
図 4-54	各フェーズの典型的な土器タイプその 2 (WJ-IV から WJ-V) .....	126
図 4-55	各フェーズの典型的な土器タイプその 3 (KT-I から KT-II) .....	127
図 4-56	ワイラヒルカ期・コトシュ期の器種一覧 .....	129
図 4-57	ワイラヒルカ期・コトシュ期の器種の消長 .....	132

図 4-58	無頸壺口縁形状の通時的変化.....	133
図 4-59	無頸壺の時期別の文様類型.....	135
図 4-60	丸底鉢の時期別の文様類型.....	137
図 4-61	凸底鉢の時期別の文様類型.....	138
図 4-62	人面文様鉢の時期別の文様類型.....	140
図 4-63	無頸壺・丸底鉢の文様の通時的変化.....	142
図 4-64	凸底鉢の文様の通時的変化.....	143
図 4-65	周辺地域の山型無頸壺の事例.....	144
図 4-66	ラ・ガルガーダ遺跡の前二千年紀の各時期の土器.....	145
図 4-67	ワリコト遺跡の前二千年紀の各時期の土器.....	146
図 4-68	チャビン・デ・ワントル遺跡ウラバリウ期の土器.....	147
図 4-69	クエバ・デ・ラス・レチューサス遺跡の出土土器.....	148
図 4-70	トゥティシュカイニョ遺跡の前二千年紀の各時期の土器.....	150
図 4-71	ワヌコ盆地の橋付き双注口ボトルの事例.....	152
図 4-72	前二千年紀の橋付きボトルの3タイプ.....	152
図 4-73	ワヌコ盆地およびアンコン遺跡の瓢箪型ボトルの事例.....	153
図 4-74	コトシュ期の各遺跡の搬入土器.....	154
図 4-75	ワヌコ盆地の前二千年紀の器種と文様系統.....	155
図 4-77	WJ-III 期から IV 期における各要素の軌跡.....	157
図 5-1	単一多層モデルの3つのタイプ (Bronk Ramsey 2009:fig.6 より抜粋).....	163
図 5-2	ハンカオ遺跡の炭化物資料採取地点.....	165
図 5-3	ハンカオ遺跡 C534 付近から出土したコトシュ期外反鉢.....	165
図 5-4	ハンカオ遺跡炭化物資料の配置.....	166
図 5-5	ハンカオ遺跡年代解析 OxCal 入力図.....	167
図 5-6	ハンカオ遺跡の年代.....	171
図 5-7	コトシュ遺跡各時期の炭化物資料採取位置.....	172
図 5-8	コトシュ遺跡炭化物資料の配置.....	173
図 5-9	コトシュ遺跡解析 OxCal 入力図.....	174
図 5-10	コトシュ遺跡の年代.....	177
図 5-11	ワヌコ盆地の各時期の年代.....	179
図 5-12	ラ・ガルガーダ遺跡およびワルカヤン遺跡の形成期前期・中期の年代.....	184
図 5-13	ワヌコ盆地コトシュ期の年代とチャビン・デ・ワントル遺跡ウラバリウ期の年代比較.....	184
図 5-14	フニン高原の各遺跡の形成期前期の年代.....	186
図 5-15	北部地域の初期の土器に伴う年代.....	188
図 5-16	先行研究によるワヌコ盆地のミト期～コトシュ期の年代.....	190
図 6-1	先行研究におけるワヌコ盆地ワイラヒルカ期・コトシュ期の遺跡分布.....	193



図 6-2	新たな編年にもとづくワイラヒルカ期・コトシュ期の各時期の遺跡分布 .....	195
図 6-3	ワイラヒルカ期中葉のヒルカンエラ遺跡の表採土器とハンカオ遺跡出土土器との比較 ...	196
図 6-4	ワイラヒルカ期後葉の各遺跡の表採土器とハンカオ遺跡出土土器との比較 .....	197
図 6-5	コトシュ期の各遺跡の表採土器とコトシュ遺跡出土土器の比較.....	198
図 6-6	ワヌコ盆地の各遺跡の利用期間の推定 .....	201
図 6-7	ミト期からコトシュ期における各遺跡の建築シークエンス .....	202
図 6-8	コトシュ遺跡ワイラヒルカ期・コトシュ期の墓 .....	205
図 6-9	シヤコト遺跡ワイラヒルカ期の墓 .....	206
図 6-10	T6 副葬品.....	206
図 6-11	シヤコト遺跡コトシュ期の墓.....	208
図 6-12	T4 副葬品.....	209
図 6-13	ワヌコ盆地ミト期からコトシュ期の尖頭器・磨製石斧 .....	210
図 7-1	北部中央山地のミトスタイル建築の事例 .....	217
図 7-2	コトシュ遺跡の「埋葬型」神殿更新とニッチに奉納された土偶.....	218
図 7-3	ワイラヒルカ期前葉の地域間交流 .....	220
図 7-4	ワイラヒルカ期後葉の地域間交流 .....	224
図 7-5	コトシュ期の地域間交流.....	227

## 表目次

表 1-1	アンデス文明年表（大貫ほか編 2010:20 より抜粋） .....	3
表 4-1	各遺跡の土器出土層の概要 .....	70
表 4-2	各土器出土地点の器種の存否.....	130
表 4-3	各出土地点の発掘区・層位と分析数.....	130
表 5-1	ハンカオ遺跡の年代解析結果.....	170
表 5-2	コトシュ遺跡の年代解析結果.....	176
表 5-3	ワヌコ盆地の新たな編年と北部中央山地の各地の編年 .....	191
表 6-1	発掘調査にもとづく各遺跡の利用時期の推定.....	194
表 6-2	表面採集資料にもとづく各遺跡の利用時期の推定.....	194
表 6-3	ワヌコ盆地ワイラヒルカ期・コトシュ期の各遺跡の規模と立地.....	199
表 6-4	ワヌコ盆地と周辺地域の前二千年紀の生業.....	214



## 第1章. 研究の背景と目的

本研究の目的は、アンデス山脈東斜面に位置するワヌコ盆地（ペルー）の紀元前二千年紀の精緻な編年を構築し、社会動態を明らかにすることにある。本章ではまず、研究の背景となる中央アンデス地域の編年と地理、および本研究の主題である紀元前二千年紀という時期とワヌコ盆地の様相について概観する。次に研究の目的と方法を論じたのち、本稿の構成を提示する。

### 1.1. 中央アンデス地域の地理と編年

#### 1.1.1. 中央アンデス地域の自然環境と地域区分

中央アンデス地域とは、現在のペルーを中心に、北はエクアドルとの国境付近、東はアンデス山脈東斜面、西は太平洋岸、南はボリビアのチチカカ湖付近までを範囲とする地域である（図1-1）。この地域では、パレオ・インディアンの到達から、スペイン人の侵入によるインカ帝国の滅亡まで、相互に関連する様々な社会が展開した（表1-1）。これを総じて（先史）アンデス文明と呼ぶ。

中央アンデス地域は多様な生態環境に特徴づけられ、その分類は地理学者のハビエル・プルガル＝ビダルによるものが一般的に用いられている。プルガル＝ビダルは中央アンデス地域の東西での植生の違いと、標高差による植生帯の変化とに着目し、太平洋岸からアンデス山脈西側、アンデス山脈東側からアマゾン低地までを標高によって8つに区分した(Pulgar Vidal 1987; 関 2010:5-8)（図1-2）。まず、海拔500m以下の太平洋岸の海岸砂漠地帯はチャラと呼ばれ、チャラの上に位置する海拔2300mまでの河川の渓谷地帯はユンガと呼ばれる。ユンガの上の海拔3500mまでの山あいの地帯はケチュア、その上の海拔4000mまでの地帯はスニ（ハルカ）である。ユンガ、ケチュア、スニでは栽培される植物が異なっており、ユンガでは様々な果実類、アボカドやマニオク、ココなどが栽培され、ケチュアではトウモロコシやマメ類、スニではジャガイモなどが栽培される。スニの上には高原地域のプーナが広がり、ラクダ科動物の飼育が行われている。アンデス東斜面には、標高400mから1000mに位置するアマゾン川原流域の森林地帯のルパルパがあり、その下にはアマゾン低地の森林地帯（オマグア）が広がる。

また、図1-1に示しているように、アンデス文明研究において中央アンデス地域の地域区分は、海岸部を極北部、北部、北部中央、中央、南部中央、南に区分する分類が一般に適用されており、山間部もこれに準じる形で区分されることが多い。海岸部では、山地から太平洋に東西方向に流れ込む河川の流域にもとづいてそれぞれの領域が設定されている。山間部の区分は海岸に比べやや曖昧であるが、河川流域や山間渓谷などの地形にもとづき領域が設定されている。

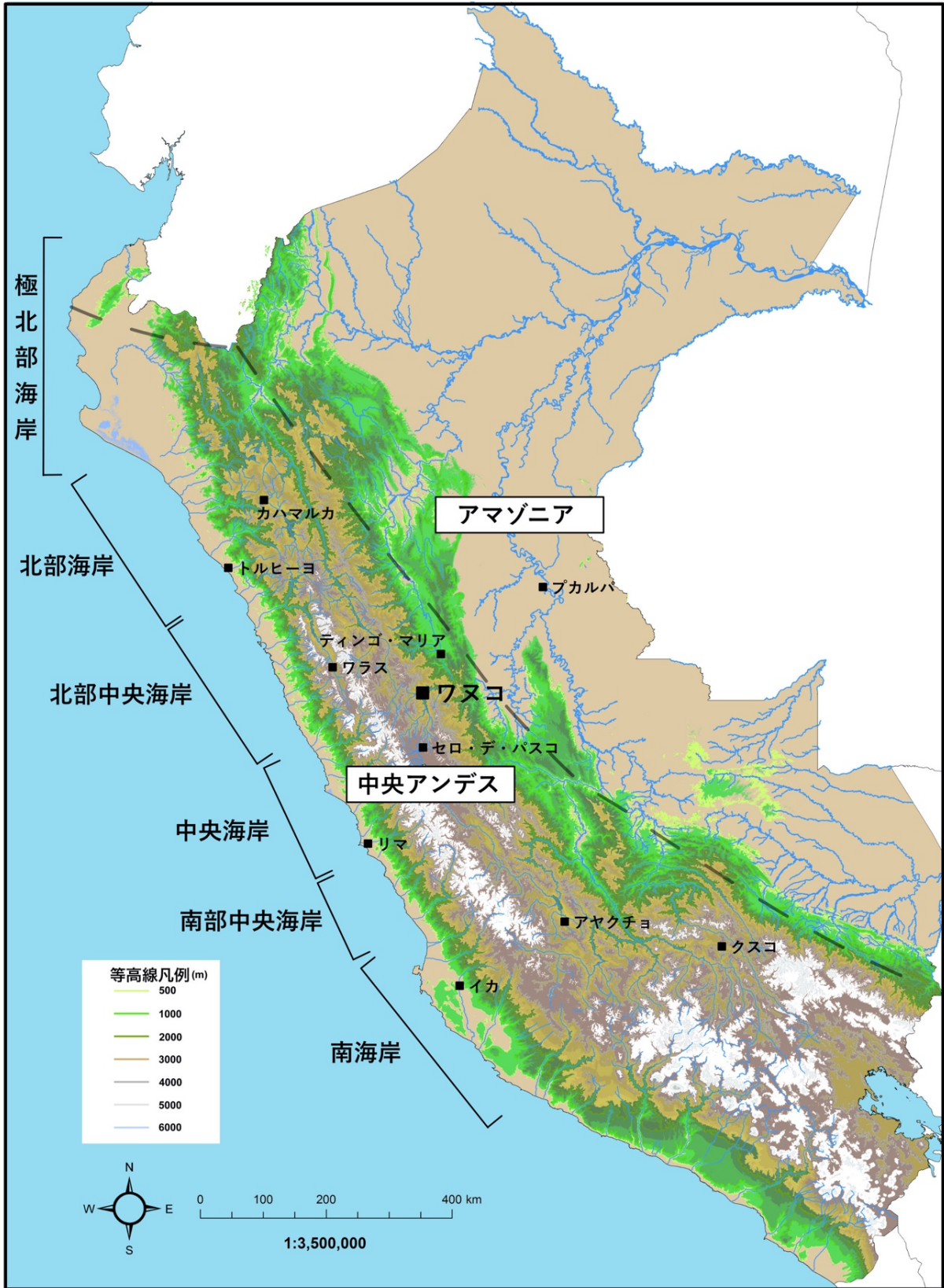


図 1-1 ペルーの地形と地域区分

古代アンデス文明の編年	絶対年代	時代区分	北海岸	中央海岸	南海岸	北高地	南高地	
採集狩猟	9000	先土器時代	バイハン	チパテロス		ギタレーロ	アヤクチョ トケバラ	
植物栽培・動物飼育の開始	5000					ラウリコチャ		
神殿建設の始まり 漁撈の発達 織物製作	3000	土器製作			チルカ			
	1800		早期	ワカ・プリエタ	カラル	エンカント		コトシュ
	1000		草創期	グアニャベ				
神殿の発展 冶金技術の発達	800	前期ホライズン						
	800		中期	クビスニケ				
	250		後期		アンコン		チャビン	
灌漑農業の本格化	BC	前期中間期		ミラマル	バラカス	クントゥル・ワシ ワカロマ		
王国の成立	AD		末期	サリナール	ネクロポリス	ライソン		
青銅器製作		中期ホライズン	ピクス					
都市の成立	700		地方発展期	モチェ	リマ	ナスカ	レクワイ バシャシュ カハマルカ	ティワナク
	1000	後期中間期						
	1000		地方王国期	シカン チムー	チャンカイ	イカ・チャンチャ		ルバカ
全中央アンデスの政治統一	1500	後期ホライズン						
スペイン人の侵入	1532		インカ帝国期		チムー・インカ		インカ	
	1821	植民地時代						

表 1-1 アンデス文明年表 (大貫ほか編 2010:20 より抜粋)

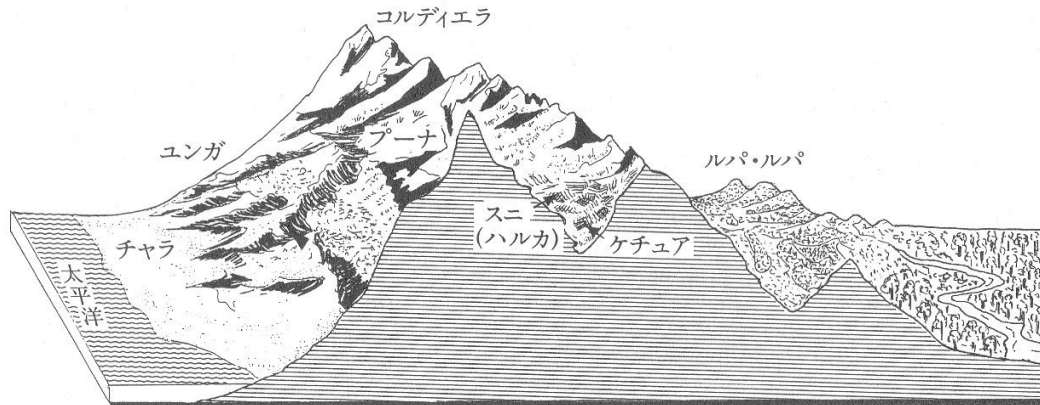


図 1-2 中央アンデスの環境区分 (関 2010:図 2 より抜粋)

### 1.1.2. アンデス文明の編年

アンデス文明の編年は、19世紀末から20世紀初頭にかけて、ドイツ人考古学者のマックス・ウーレによって最初に構築された。ウーレによるペルーの広域編年は、(1)初期の地域的スタイル (2) ティワナコのスタイル (3) 後期の地域的スタイル (4) インカのスタイルという、広範囲に類似した土器スタイルが分布する2つの時期と、その前後に位置するローカルな土器スタイルが分布する2つの時期の4時期で構成された(Willey and Sabloff 1993:79)。また20世紀前半に、ウーレの編年体系とは独立したアンデスの編年研究が、ペルー人考古学者のフリオ・テーヨにより行われていた。テーヨは高地を含むアンデス各地の遺跡に知悉し、チャビン・デ・ワントル遺跡の土器や石彫等に代表されるスタイルを、それまで発見されていたどの文化のものとも異なるものと認識して、アンデスの最古の文化としてチャビン文化を位置付けた(Kroeber 1927; Tello 1943)。チャビン・スタイルは1940年代までに、ウーレのインカとティワナコの2つのスタイルに続き、アンデス編年上最古のホライズン・スタイルとして認識されるようになった(Bennett 1943; Kroeber 1927; Willey 1945)。また、海岸部の研究の発展から、20世紀半ばにはチャビン・スタイルよりさらに古い土器文化の存在が認識されるようになった。

1960年代初頭に、ジョン・ロウはこれまでの編年の内容と方法を整理し、土器時代以降について草創期、前期ホライズン (チャビン・ホライズンに相当)、前期中間期、中期ホライズン、中期中間期、後期ホライズンの6時期を設定した(Rowe 1960)。現在は主にアメリカ人研究者らにより、ロウの編年体系に前期・中期・後期先土器期をくわえた編年が用いられている。一方ペルー人研究者と日本人研究者は、石期、古期、(文明)形成期、地方発展期、ワリ期、地方王国期、インカ帝国期という段階編年の流れを汲む編年体系を用いている。

中央アンデス地域では、紀元前3000年頃から大型基壇建築が見られるようになり、前1800年頃に土器が導入された。この間の時期は、アメリカ式編年・ペルー式編年では後期先土器期ま

たは古期後半にあたる。一方日本人研究者らは、大型基壇建築の出現をもって形成期の開始とみなし、この時期を形成期早期と呼ぶ(加藤 1998)。つづく前1800年から前50年の間は4時期に区分されることが多く、ペルー・日本式編年では形成期前期・中期・後期・末期にあたり、アメリカ式編年では草創期前半・後半、前期ホライズン前半・後半にあたる。本稿では、日本式編年の慣例に倣い、形成期を早期から末期の5区分とする編年体系を用いる。なお、各時期の年代観は議論が続いているが、現在は大枠として、形成期早期が前3000-前1800年、前期が前1800-前1200年、中期が前1200年-前800年、後期が前800-前250年、末期が前250-前50年とされることが多い(関 2010:46)。

## 1.2. 紀元前二千年紀前後のアンデス社会

紀元前二千年紀は、形成期早期末から形成期中期に該当する。形成期早期は海岸・山地の各地に大型の基壇建築伝統が出現した時期である(e.g., Izumi and Terada 1972; Shady and Leyva 2003)。この時期には各地で農耕を中心とした生業が営まれ、降雨量の少ない地域では灌漑農耕が行われていた(e.g., Grieder et al. 1988)。また、フニン高原などの高原地域ではラクダ科動物の家畜化が進行していた(e.g., Rick 1980)。形成期前期には、早期に栄えた各地の基壇建築伝統が途絶え、土器の導入とともに新たな建築伝統が出現した(e.g., Tellenbach 1986; Terada and Onuki 1982, 1985)。中央アンデス地域の初期の土器は、土器の出現が二千年以上先行する北部アンデス地域や東部のアマゾン地域のものとは大きく異なっており、器壁の薄い無頸壺を主体としていた。この時期の土器は器形・装飾ともに概して単純であり、刺突文や粘土紐の貼り付けが主要な施文方法である(e.g., Burger 1985; Kaulicke 1981; Tsurumi 2008)。ただし極北部や東斜面では、土器の装飾に近隣の熱帯低地の影響が見られる(e.g., Izumi and Terada 1966)。

形成期中期になると、海岸部を中心に基壇をコの字型に配したU字基壇建築の伝統が栄え(e.g., Burger and Salazar 2008)、山間部でも各地で新たな大型基壇建築が出現した(e.g., Matsumoto 2010; Seki et al. 2008; Terada and Onuki 1985)。また、北部海岸や北部中央海岸では当時期の巨大なジャガー壁画が発見されている(e.g., 芝田 2011)。中期の土器の様相は、北海岸ではクピスニケと呼ばれる、よくしまった胎土の鎧型ボトルや幅の太い刻線で施されたジャガー文様を特徴とする土器スタイルが現れ、北部山地では極北部と関係の深い区画彩文土器が広く分布する(e.g., 関 2006; 関・坂井 1998; 山本 2012)など、地域的な多様性が増す。

形成期後期になるとこのような状況は一転し、表面が黒色でよく磨かれ、押圧による圏点文や刻線による図像表現を有し、浅い平底鉢や注口付き鉢、鎧型ボトルなどの器種を持つよく似た土器スタイルが広い範囲に分布するようになる。基壇建築伝統は山地を主体として発達し、

チャビン・デ・ワントル(e.g., Rick et al. 1998, 2009)やクントウル・ワシ(e.g., Onuki and Kato 1993)などの遺跡ではとりわけ大規模な建築が発見されている。後期にはこれらの遺跡が中心となり、汎地域的な交流ネットワークが形成されていたことが論じられている (e.g., Burger 1992; 加藤 2007)。

### 1.3. ワヌコ盆地の特徴

ワヌコ盆地は、北部中央山地の東斜面に位置する標高2000m程の山間渓谷である(図1-3)。当地域はフニン高原を水源とし、アンデス東斜面を南北に下ってアマゾン川へと合流するワリャガ川の形成する谷底および周囲の山岳斜面によって構成されている。気候は亜熱帯性の半乾燥気候(Maekawa 1963)であり、アンデス地域の気候区分では主にユンガ地帯に属する。また、当地域は標高4000mを超えるフニン高原と標高3000m程度の北部の山岳地帯、および東部に広がる熱帯低地の入り口までそれぞれ100km程度と距離が近く、周囲を多様な生態環境に囲まれた特異な立地に位置している(図1-4)。

この地域では、形成期早期にコトシュ宗教伝統(Burger and Salazar-Burger 1980)またはミト建築伝統(Bonnier 1997)と呼ばれる基壇建築伝統が栄えた。ミトスタイルの建築は、上床から一段掘り窪められた下床の中心に炉が据えられ、床下には通気孔が通されるという構造をもつ石造の部屋で、壁には壁龕(ニッチ)が備えられる。この伝統は紀元前2000年頃に終わり、その後土器の導入とともに各地で新たな建築の建設が行われた。

ワヌコ盆地の前二千年紀の土器は、中央アンデス地域の土器伝統と熱帯低地の土器伝統の融合的な様相を示しているとしてこれまで注目されてきた(第二章参照)。形成期前期にあたるワイラヒルカ期の土器は、中央アンデス地域の土器伝統と同じく無頸壺を主体とするが、他では見られない多様な鉢の種類と豊かな図像表現を特徴とする。特に鉢に施される、二本の刻線により区画された部分を短い斜線で充填するZoned Hachureと呼ばれる技法による幾何学文様は、同時期の熱帯低地との共通性が高いことがこれまで指摘されてきた(Izumi and Terada 1972; Lathrap 1971)。また、中期にあたるコトシュ期ではZoned Hachure技法は姿を消すが、文様や鉢の器形の一部で周辺の山岳地域には見られない熱帯低地の伝統を起源とする要素が継続して見られる。このようなワヌコ盆地の状況は、アンデス文明の初期における山地-熱帯間の関係性を示すものとして重要である。



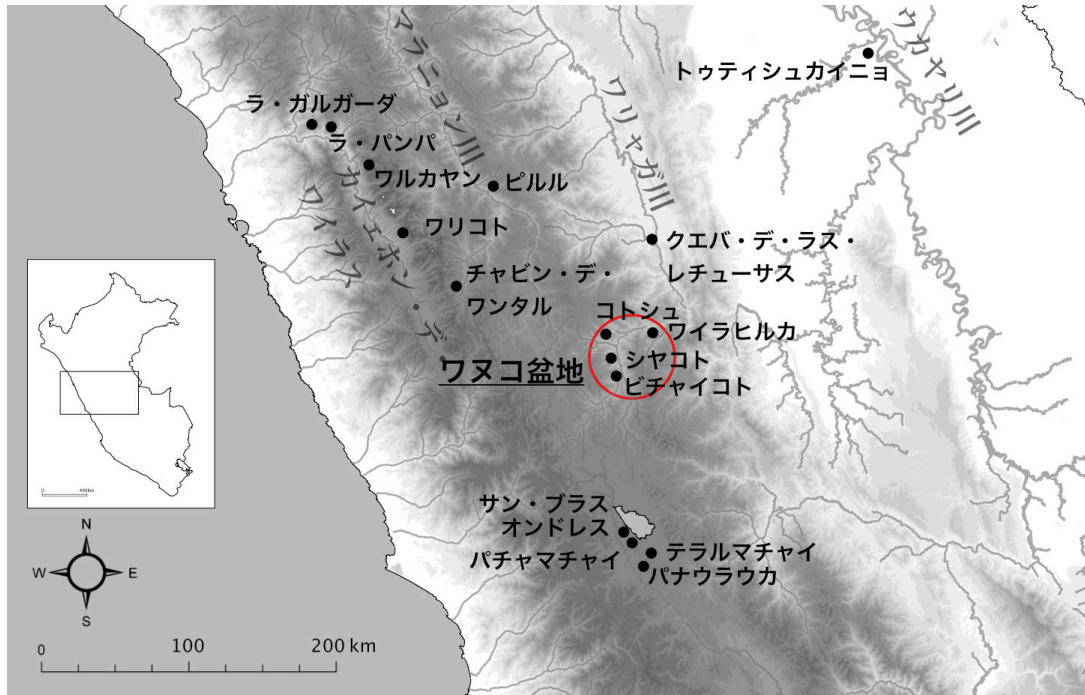


図 1-3 ワヌコ盆地の位置付けと本論文で扱う主要な遺跡

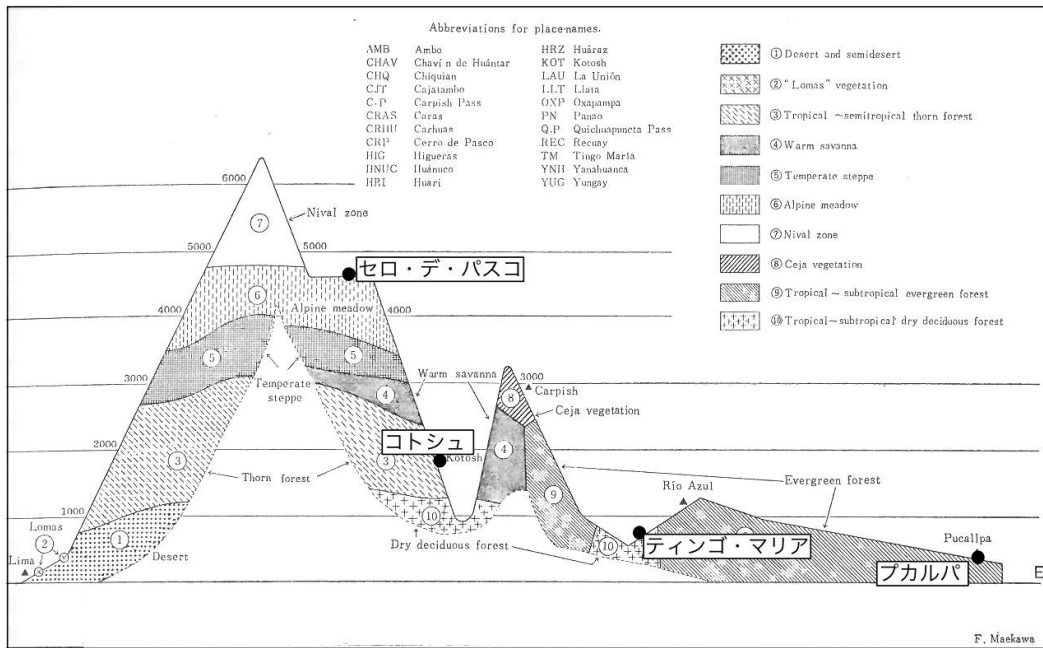


図 1-4 ワヌコ盆地と周辺地域の高度と植生 (Izumi and Sono 1963:fig.6 より一部改変)

#### 1.4. 課題

形成期早期に中央アンデス各地に展開した基壇建築伝統から、形成期後期の汎地域的なチャビン・ホライズンの成立まで、前二千年紀の千年間には様々な社会発展がある。チャビン・ホライズン下での在地性の問題が注目される中で、前二千年紀における地域社会の長期的な発展と、地域間の相互交流の拡大のプロセスの解明はますます重要になっている。特にこの時期は、アンデス地域と熱帯低地の交流関係が各地で顕在化する時期であり、当時期のアンデス―アマゾン間の関係の発達プロセスはアンデス文明の形成過程の理解のために重要な主題である。

しかし前二千年紀という時期は、研究の基礎となる編年において未だ課題が多い。まずワヌコ盆地では、1960年代以降考古学調査がほとんど実施されなかったという経緯により、当該時期の編年の細分が進んでいない。特に、当地域の形成期前期の土器とされる多様な器種・装飾を持つ土器群(Izumi and Sono 1963; Izumi and Terada 1972)と、周辺地域の初期の土器に見られる器種の限られたシンプルな土器群 (e.g., Burger 1988; Morales 1998) との時間的先後関係が検証・明瞭化されてこなかったことは大きな問題である。また、前二千年紀研究の全体的な課題として、炭素年代測定データは近年増加しているものの、早期や後期に比べると個別遺跡や地域での参照可能なデータは十分でなく、未だ限られたデータから年代評価が行われている現状にある。これらの問題は、当該時期の在地社会における長期的な変化のプロセスを解明する上での障壁となっている。

また、このような編年研究の遅れは、前二千年紀におけるアンデス―アマゾン間の関係の通時期的変化について、具体的な様相の解明を困難にしてきた。上述のようにワヌコ盆地では、当時期に熱帯地域との強い結びつきがあったことが論じられているが、「アンデスとアマゾンの要素が混在している」という特異な土器の状況が、どのようなプロセスにより生じたのかということは詳らかにされておらず、両地域の交流関係のあり方は単純な伝播論や「相互作用圏」等による説明 (e.g., Lathrap 1971; Meggers et al. 1965) にとどまってきた。

#### 1.5. 研究の目的と方法

本研究の目的は、ワヌコ盆地の前二千年紀の精緻な編年を構築し、社会動態を明らかにすることにある。ワヌコ盆地の前二千年紀の土器の特異な様相は、アンデス―アマゾン間の関係の発達プロセスの解明に大きく寄与する。また、当地域では複数の立地が早期から中期まで継続して大型基壇建築の建設の場として利用されており、これらの遺跡の調査を通じて在地社会の長期的な発達の歴史を明らかにすることができる。

上記の目的を達成するために、本研究では次のような方法を用いた。まずペルー共和国ワヌ

コ県ワヌコ市で発掘調査と遺物分析を行った。2016年から2018年の3年間、ワヌコ盆地では東京大学の鶴見英成助教によるコトシュ遺跡とハンカオ遺跡の発掘調査が行われた。筆者はこれに参加し、土器分析を担当した。また2019年には、筆者が筆頭となりビチャイコト遺跡の発掘調査を実施した。次に、これらの調査から得られた層位・土器・年代の一次データ、および1960年代に東京大学の調査者らにより実施された先行研究の報告データを分析し、ワヌコ盆地の形成期前期・中期の新たな地域編年を構築した。その上で、新たな編年をもとに各時期の遺跡分布や遺構・遺物の諸特徴を再検討し、当該時期のワヌコ盆地の社会変化のプロセスを考察した。

## 1.6. 本論文の構成

本論文は全8章で構成される。第1章では研究の背景、目的、方法を提示している。第2章では先行研究を概観して現状の課題を整理し、本論文の位置づけと方法論、理論的枠組みを示す。第3章では、2016年から2019年の発掘調査で得られたデータを整理・検討し、各遺跡の建築の通時的変化を明らかにする。第4章では、これらの調査で得られた土器資料と先行研究のデータを総合し、体系的な型式学的分析によって新たな土器編年を構築する。また、系統的アプローチによりワヌコ盆地の前二千年紀の土器スタイルの変化のプロセスを考察する。第5章では、上述の調査で得られた各遺跡の放射性炭素年代測定データを、ベイズ推定を用いて解析し、各遺跡の利用時期を推定する。また、これをもとに新たな地域編年の年代観を提示する。第6章では、前章までで設定された地域編年にもとづき、各時期の遺跡分布と各遺跡の利用期間、時期ごとの建築スタイルの特徴およびワヌコ盆地と外部地域との地域間交流の通時的変化について考察する。第7章では、第3～6章で明らかにした前二千年紀のワヌコ盆地の考古学的状況と、周辺地域の様相とを統合し、ワヌコ盆地の社会変化のプロセスを考察する。最後に第8章では、前章までの内容を総括し、本研究の結論を提示する。

5年以内に出版予定のため第2章以降は公開を差し控える。

## 引用文献

### 欧文文献

- Bennett, Wendell C. 1943. "The Position of Chavin in Andean Sequences." *Proceedings of the American Philosophical Society* 86(2):323–27.
- Bischof, Henning. 1967. "Review of Early Formative Period of Coastal Ecuador: The Valdivia and Machalilla Phases by Betty J. Meggers, Clifford Evans, Emilio Estrada" *American Journal of Archaeology* 71(2):216–19.
- Bonnier, Elisabeth. 1997. "Preceramic Architecture in the Andes: The Mito Tradition." Pp. 120–44 in *Arquitectura y civilización en los Andes prehispánicos*, edited by E. Bonnier and H. Bischof. Sociedad Arqueológica Peruano-Alemana, Reiss-Museum Mannheim.
- Bria, Rebecca E. 2017. "Ritual, Economy, and the Construction of Community at Ancient Hualcayán (Ancash, Peru)." PhD Dissertation, Department of Anthropology, Vanderbilt University.
- Bronk Ramsey, Christopher. 2009. "Bayesian Analysis of Radiocarbon Dates." *Radiocarbon* 51(1):337–60.
- Brown, Nicholas E. 2017. "Chavin and Chavín: Evidence of Interregional Interaction Involving the Peruvian Central Highlands during the Late Initial Period." *Ñawpa Pacha* 37(2):87–109.
- Bueno Mendoza, Alberto. 2004. "Arqueología al Norte Del Callejón de Huaylas: La Galgada, Tumshukaiko y Pashash." Pp. 51–82 in *Arqueología de la Sierra de Ancash: Propuestas y Perspectivas.*, edited by B. Ibarra. Lima: Instituto Cultural Rvna.
- Burger, Richard L. 1984. *The Prehistoric Occupation of Chavín de Huántar, Peru*. Berkeley: University of California Press.
- Burger, Richard L. 1985. "Prehistoric Stylistic Change and Cultural-Development at Huaricoto, Peru." *National Geographic Research* 1(4):505–34.
- Burger, Richard L. 1988. "The Beginning of Ceramic Use in Peru as Viewed from Huaricoto." *Paleoetnologica* 5:259 – 266.
- Burger, Richard L. 1992. *Chavin and the Origins of Andean Civilization*. London: Thames & Hudson.
- Burger, Richard L. 2008. "Chavín de Huántar and Its Sphere of Influence." Pp. 681–706 in *Handbook of South American archaeology*, edited by H. I. Silverman and W. Isbell. New York: Springer.
- Burger, Richard L. 2019. "Understanding the Socioeconomic Trajectory of Chavín de Huántar: A New Radiocarbon Sequence and Its Wider Implications." *Latin American Antiquity* 30(2):373–92.
- Burger, Richard L., and Lucy C. Salazar. 2008. "The Manchay Culture and the Coastal Inspiration for Highland Chavín Civilization." Pp. 85–106 in *Chavín : Art, Architecture, and Culture*, edited by W. J. Conklin and J. Quilter. Los Angeles: Cotsen Institute of Archaeology, University of California.
- Burger, Richard L., and Lucy C. Salazar-Burger. 1980. "Ritual and Religion at Huaricoto." *Archaeology* 33(6):26–32.

- Burger, Richard L., and Lucy C. Salazar-Burger. 1993. "The Place of Dual Organization in Early Andean Ceremonialism: A Comparative Review." Pp. 97–116 in *El Mundo Ceremonial Andino*, edited by L. Millones and Y. Onuki. Osaka: National Museum of Ethnology.
- Burger, Richard L., and Nikolaas J. van der Merwe. 1990. "Maize and the Origin of Highland Chavín Civilization: An Isotopic Perspective." *American Anthropologist* 92(1):85–95.
- Church, Warren. 1996. "Prehistoric Cultural Development and Interregional Interaction in the Tropical Montane Forests of Peru." Ph.D. Dissertation, Department of Anthropology, Yale University.
- Church, Warren B., and Adriana Von Hagen. 2008. "Chachapoyas: Cultural Development at an Andean Cloud Forest Crossroads." Pp. 903–926 in *Handbook of South American archaeology*, edited by H. I. Silverman and W. Isbell. New York: Springer.
- Clark, John E., and Dennis Gosser. 1995. "Reinventing Mesoamerica's First Pottery." Pp. 209–22 in *The Emergence of Pottery Technology and Innovation in Ancient Societies*, edited by W. Barnett and J. W. Hoopes. Washington, DC: Smithsonian Institution Press.
- Coe, Michael D. 1962. "An Olmec Design on an Early Peruvian Vessel." *American Antiquity* 27(4):579–80.
- Coe, Michael D. 1963. "Olmec and Chavin: Rejoinder to Lanning." *American Antiquity* 29(1):101–4.
- DeBoer, Warren R. 2003. "Ceramic Assemblage Variability in the Formative of Ecuador and Peru." Pp. 289 – 336 in *Archaeology of Formative Ecuador*, edited by S. J. Raymond and R. L. Burger. Washington, DC: Dumbarton Oaks Research Library and Collection.
- DeBoer, Warren R., and Donald W. Lathrap. 1979. "The Making and Breaking of Shipibo-Conibo Ceramics." Pp. 102–38 in *Ethnoarchaeology: Implications of Ethnography for Archaeology*, edited by C. Kramer. New York: Columbia University Press.
- Ford, James A. 1967. "Early Formative Period of Coastal Ecuador: The Valdivia and Machalilla Phases. Betty J. Meggers, Clifford Evans, and Emilio Estrada. Smithsonian Contributions to Anthropology, Vol. I, Washington, 1965. 234 Pp., 115 Figs., 196 Pls., 30 Tables, Bibliography. \$6.95." *American Antiquity* 32(2):258–59.
- Ford, James A. 1969. *A Comparison of Formative Cultures in the Americas: Diffusion or the Psychic Unity of Man*. Washington, DC: Smithsonian Institution Press.
- Gayton, A. H., and Alfred L. Kroeber. 1927. *The Uhle Pottery Collections from Nazca*. Berkeley: University of California press.
- Griender, Terence E. 1988a. "Burial Patterns and Offerings." Pp. 73–102 in *La Galgada, Peru: A Pre-ceramic Culture in Transition*, edited by T. E. Griender, A. B. Mendoza, E. C. Smith, Jr., and R. M. Malina. Austin: University of Texas Press.
- Griender, Terence E. 1988b. "Ceramics." Pp. 185–191 in *La Galgada, Peru: A Pre-ceramic Culture in Transition*, edited by T. E. Griender, A. B. Mendoza, E. C. Smith, Jr., and R. M. Malina. Austin: University of Texas Press.

- Griender, Terence E. 1988c. "Radiocarbon Measurements." Pp. 68–72 in *La Galgada, Peru: A preceramic culture in transition*, edited by T. E. Griender, A. B. Mendoza, E. C. Smith, Jr., and R. M. Malina. Austin: University of Texas Press.
- Griender, Terence, and Alberto Bueno Mendoza. 1985. "Ceremonial Architecture at La Galgada." Pp. 93–109 in *Early Ceremonial Architecture in the Andes: A Conference at Dumbarton Oaks, 8th to 10th October 1982*, edited by C. B. Donnan. Washington, DC: Dumbarton Oaks Research Library and Collection.
- Griender, Terence E., Alberto Bueno Mendoza, Earle C. Smith, Jr., and Robert M. Malina. 1988. *La Galgada, Peru: A Preceramic Culture in Transition*. Austin: University of Texas Press.
- Hogg, Alan G., Timothy J. Heaton, Quan Hua, Jonathan G. Palmer, Chris SM Turney, John Southon, Alex Bayliss, Paul G. Blackwell, Gretel Boswijk, Christopher Bronk Ramsey, Charlotte Pearson, Fiona Petchey, Paula Reimer, Ron Reimer, and Lukas Wacker. 2020. "SHCal20 Southern Hemisphere Calibration, 0–55,000 Years Cal BP." *Radiocarbon* 62(4):759–78.
- Izumi, Seiichi. 1971. "Development of the Formative Culture in the Ceja de Montaña of the Central Andes." Pp. 49–72 in *Dumbarton Oaks Conference on Chavín, October 26th and 27th, 1968*, edited by E. P. Benson. Washington, DC: Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Trustees for Harvard University.
- Izumi, Seiichi, Pedro Cuculiza, and Chiaki Kano. 1972. *Excavations at Shillacoto. Huánuco, Peru*. Tokyo: University of Tokyo Press.
- Izumi, Seiichi, and Tosihiko Sono. 1963. *Excavations at Kotosh, Peru, 1960*. Tokyo: Kadokawa Publishing Co.
- Izumi, Seiichi, and Kazuo Terada. 1966. *Excavations at Pechiche and Garbanzal, Tumbes Valley, Peru 1960*. Tokyo: Kadokawa Publishing Co.
- Izumi, Seiichi, and Kazuo Terada. 1972. *Excavations at Kotosh, Peru 1963 and 1966*. Tokyo: University Museum, University of Tokyo.
- Joyce, Rosemary A. 2004. "Unintended Consequences? Monumentality as a Novel Experience in Formative Mesoamerica." *Journal of Archaeological Method and Theory* 11(1):5–29.
- Kanezaki, Yuko, Takayuki Omori, and Eisei Tsurumi. in press. "Emergence and Development of Pottery in the Andean Early Formative Period: New Insights from an Improved Wairajirca Pottery Chronology at the Jancao Site in The Huánuco Region, Peru." *Latin American Antiquity*.
- Kano, Chiaki. 1972. "Pre-Chavín Cultures in the Central Highlands of Peru: New Evidence from Shillacoto, Huánuco." Pp. 139–52 in *The Cult of the Feline: A Conference in Pre-Columbian Iconography*, edited by E. P. Benson. Washington, DC: Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Trustees for Harvard University.
- Kano, Chiaki. 1979. *The Origins of the Chavín Culture*. Washington, DC: Dumbarton Oaks, Trustees for Harvard University.

- Kaulicke, Peter. 1981. "Keramik Der Fruhen Intialperiode Aus Pandanche, Dpto. Cajamra, Peru." *BAVA* 3:363–89.
- Kembel, Silvia Rodriguez, and Herbert Haas. 2015. "Radiocarbon Dates from the Monumental Architecture at Chavín de Huántar, Perú." *Journal of Archaeological Method and Theory* 22(2):345–427.
- Kidder, Jr., Edward J. 1957. *The Jomon Pottery of Japan*. Ascona: Artibus Asiae Publishers.
- Kroeber, Alfred L. 1927. "Coast and Highland in Prehistoric Peru." *American Anthropologist* 29(4):625–53.
- Kroeber, Alfred L., and William Duncan Strong. 1924. *The Uhle Pottery Collections from Chincha*. University of California Press.
- Kubler, George. 1982. "The Shape of Time. Reconsidered." *Perspecta* 19:112–121.
- Lanning, Edward P. 1963. "Olmec and Chavin: Reply to Michael D. Coe." *American Antiquity* 29(1):99–101.
- Lathrap, Donald W. 1962. "Yarinacocha: Stratigraphic Excavations in the Peruvian Montaña." PhD Dissertation, Department of Anthropology, Harvard University.
- Lathrap, Donald W. 1965. "Origins of Central Andean Civilization: New Evidence." *Science* 148(3671):796–98.
- Lathrap, Donald W. 1967. "Review of Early Formative Period of Coastal Ecuador: The Valdivia and Machalilla Phases by Betty J. Meggers, Clifford Evans, Emilio Estrada." *American Anthropologist* 69(1):96–98.
- Lathrap, Donald W. 1970. *The Upper Amazon*. London: Thames and Hudson.
- Lathrap, Donald W. 1971. "The Tropical Forest and the Cultural Context of Chavín." Pp. 73–100 in, *Dumbarton Oaks Conference on Chavín, October 26th and 27th, 1968*. Washington, DC: Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Trustees for Harvard University.
- Lathrap, Donald W. 1973. "The Antiquity and Importance of Long-distance Trade Relationships in the Moist Tropics of Pre-Columbian South America." *World Archaeology* 5(2):170–86.
- Lathrap Donald W. 1974. "The Moist Tropics, the Arid Lands, and the Appearance of Great Art Styles in the New World." Pp. 115–158 in *Art and Environment in Native America*, edited by King M. E. and Traylor I. R. Texas Tech Press.
- Lathrap, Donald W., and Lawrence Roys. 1963. "The Archaeology of the Cave of the Owls in the Upper Montaña of Peru." *American Antiquity* 29(1):27–38.
- Lavallée, Daniele. 1977. "Telarmachay. Campamento de pastores en la puna de Junín del periodo formativo." *Revista del Museo Nacional* 43:61–96.
- Lyman, R. Lee, Michael J. O'Brien, and Robert C. Dunnell. 1997. *The Rise and Fall of Culture History*. New York: Plenum Press.
- Lyman, R. Lee, Steve Wolverton, and Michael J. O'Brien. 1998. "Seriation, Superposition, and Interdigitation: A History of Americanist Graphic Depictions of Culture Change." *American Antiquity* 63(2):239–61.
- Lynch Thomas F. 1980. *Guitarrero Cave: Early Man in the Andes*. New York: Academic Press.
- Maekawa, Fumio. 1963. "Natural Environment (II)." Pp. 23–36 in *Excavations at Kotosh, Peru, 1960*, edited by S. Izumi and T. Sono. Tokyo: Kadokawa Publishing Co.



- Marsh, Erik J., Maria C. Bruno, Sherilyn C. Fritz, Paul Baker, José M. Capriles, and Christine A. Hastorf. 2018. "IntCal, SHCal, or a Mixed Curve? Choosing a 14C Calibration Curve for Archaeological and Paleoenvironmental Records from Tropical South America." *Radiocarbon* 60(3):925.
- Matos, Ramiro. 1975. "Prehistoria y ecología humana en las punas de Junín." *Revista Del Museo Nacional* 41:37–80.
- Matos, Ramiro Mendieta. 2002. "El periodo formativo en el altiplano de Junín." Pp. 189–200 in *Formativo Sudamericano, una reevaluación: ponencias presentadas en el Simposio Internacional de Arqueología Sudamericana, Cuenca, Ecuador, 13-17 de enero de 1992*, edited by P. Ledergerber-Crespo. Washington, DC: Smithsonian Institution.
- Matos, Ramiro Mendieta, John W. Rick, and Deborah M. Pearsall. 1978. "Los recursos naturales y el poblamiento precerámico de la puna de Junín." *Revista del Museo Nacional* 44:23–68.
- Matsumoto, Yuichi. 2010. "The Prehistoric Ceremonial Center of Campanayuq Rumi: Interregional Interactions in the South-Central Highlands of Peru." Ph.D. Dissertation, Department of Anthropology, Yale University.
- Matsumoto, Yuichi. 2020a. "A Reconsideration of the Radiocarbon Chronology of the Upper Huallaga Basin." Pp. 131–48 in *Prehistoric Settlement Patterns in the Upper Huallaga Basin, Peru*. New Haven: The Yale Peabody Museum.
- Matsumoto, Yuichi. 2020b. *Prehistoric Settlement Patterns in the Upper Huallaga Basin, Peru*. New Haven: The Yale Peabody Museum.
- Matsumoto, Yuichi, and Eisei Tsurumi. 2011. "Archaeological Investigations at Sajara-Patac in the Upper Huallaga Basin, Peru." *Ñawpa Pacha* 31(1):55–100.
- Meggers, Betty J., and Clifford Evans. 1961. "An Experimental Formulation of Horizon Styles in the Tropical Forest Area of South America." Pp. 372 – 388 in *Essays in Pre-Columbian Art and Archaeology*, edited by et al S K Lothrop. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press.
- Meggers, Betty J., Clifford Evans, and Emilio Estrada. 1965. *Early Formative Period of Coastal Ecuador: The Valdivia and Machalilla Phases*. Washington, DC: Smithsonian Institution.
- Miller, George R., and Richard L. Burger. 1995. "Our Father the Cayman, Our Dinner the Llama: Animal Utilization at Chavín de Huántar, Peru." *American Antiquity* 60(3):421–58.
- Moore, Katherine Mattison. 1989. "Hunting and the origins of herding in Peru." PhD Dissertation, Department of Anthropology, University of Michigan, Ann Arbor.
- Morales, Daniel C. 1977. "Investigaciones aruqueológicas en las Salinas se San Blas (Junin) y sus implicancias en el Periodo del Formativo en la sierra central del Peru." Bachelor's Thesis, Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima.
- Morales, Daniel C. 1992. "Chambira: alfareros tempranos de la Amazonia Peruana." Pp. 149–157 in *Estudios de Arqueología Peruana*, edited by B. Duccio and M. B. Anders. Lima: Fomciencias.

- Morales, Daniel C. 1998. "Importancia de Las Salinas de San Blas durante el Periodo Formativo en la sierra central del Peru." *Boletín de Arqueología PUCP* 2:273–88.
- Nesbitt, Jason, Belkys Gutiérrez, and Segundo Vásquez. 2008. "Excavaciones en Huaca Cortada, complejo de Caballo Muerto, valle de Moche: un informe preliminar." *Boletín de Arqueología PUCP* 12:261–86.
- O'Brien, Michael J., and R. Lee Lyman. 1999. *Seriation, Stratigraphy, and Index Fossils: The Backbone of Archaeological Dating*. New York: Kluwer Academic Publishers.
- Onuki, Yoshio. 1972. "Pottery and Clay Artifacts." Pp. 177–248 in *Excavations at Kotosh, Peru 1963 and 1966*, edited by S. Izumi and K. Terada. Tokyo: University Museum, University of Tokyo.
- Onuki, Yoshio. 1982. "Una perspectiva prehistórica de la utilización ambiental en la sierra nor-Central de los Andes centrales." Pp. 211–28 in *El hombre y su ambiente en los Andes centrales.*, edited by L. Millones and H. Tomoeda. Osaka: National Museum of Ethnology.
- Onuki, Yoshio. 1985. "The Yunga Zone in the Prehistory of the Central Andes: Vertical and Horizontal Dimensions in Andean Ecological and Cultural Processes." Pp. 339–357 in *Andean Ecology and Civilization: an Interdisciplinary Perspective on Andean Ecological Complementarity*, edited by S. Masuda, I. Simada, and C. Morris. Univ. of Tokyo Press.
- Onuki, Yoshio. 1993. "Las actividades ceremoniales tempranas en la cuenca del alto Huallaga y algunos problemas generales." Pp. 69 – 96 in *El Mundo Ceremonial Andino*, edited by L. Millones and Y. Onuki. Osaka: National Museum of Ethnology.
- Onuki, Yoshio. 2014. "Una Reconsideración de La Fase Kotosh Mito." Pp. 105–22 in *El centro ceremonial Andino: nuevas perspectivas para los períodos arcaico y formativo.*, Osaka: National Museum of Ethnology.
- Onuki, Yoshio, and Yasutake Kato. 1993. *Las excavaciones en Kuntur Wasi, Perú: la primera etapa, 1988-1990*. Tokyo: Departamento de Antropología Cultural, Universidad de Tokio.
- Onuki, Yoshio, and Yuichi Matsumoto. 2020a. "A Head Burial from Shillacoto." Pp. 163–68 in *Prehistoric Settlement Patterns in the Upper Huallaga Basin, Peru*. New Haven: The Yale Peabody Museum.
- Onuki, Yoshio, and Yuichi Matsumoto. 2020b. "Excavations at Waira-jirca, 1966." in *Prehistoric Settlement Patterns in the Upper Huallaga Basin, Peru*. New Haven: The Yale Peabody Museum.
- Pearsall, Deborah M. 1980. "Pachamachay Ethnobotanical Report: Plant Utilization at a Hunting Base Camp." Pp. 191–231 in *Prehistoric Hunters of the High Andes*, edited by J. W. Rick. New York: Academic Press.
- Pearsall, Deborah M. 1989. "Adaptation of Prehistoric Hunter-Gatherers to the High Andes: The Changing Role of Plant Resources." Pp. 318–34 in *Foraging and Farming: the Evolution of Plant Exploitation*, edited by D. R. Harris and G. C. Hillman. London: Unwin Hyman.
- Pozorski, Shelia, and Thomas Pozorski. 1986. "Recent Excavations at Pampa de Las Llamas-Moxeke, a Complex Initial Period Site in Peru." *Journal of Field Archaeology* 13(4):381–401.
- Pulgar Vidal, Javier. 1987. *Geografía del Perú: Las Ocho Regiones Naturales (Novena Edición)*. Lima: Peisa.

- Ravines, Roger. 1981. "Yacimientos arqueológicos de la región nororiental del Perú." *Amazonia Peruana Lima* 4(7):139–175.
- Reindel, Markus, and Johnny Isla. 2009. "El Periodo Inicial En Pernil Alto, Palpa, Costa Sur Del Perú." *Boletín de Arqueología PUCP* 13:259–88.
- Reindel, Markus, and Johnny Isla. 2013. "Early Cultural Developments in the Southern Andes." Pp. 41–50 in *Chavín: Peru's Enigmatic Temple in the Andes*, edited by P. Fux and A. W. Bennett. Zurich: Scheidegger & Spiess; Museum Rietberg.
- Renfrew, Colin. 1986. "Introduction: Peer Polity Interaction and Socio-Political Change." Pp. 1–18 in *Peer polity interaction and socio-political change*, edited by C. Renfrew and J. F. Cherry. Cambridge: Cambridge University Press.
- Rick, John W. 1980. *Prehistoric Hunters of the High Andes*. New York: Academic Press.
- Rick, John W., Silvia Rodríguez Kembel, Rosa Mendoza Rick, and John A. Kembel. 1998. "La Arquitectura Del Complejo Ceremonial de Chavín de Huántar: Documentación Tridimensional y Sus Implicancias." *Boletín de Arqueología PUCP* 2:181–214.
- Rick, John W., Christian Mesia, Daniel Contreras, Silvia R. Kembel, Rosa M. Rick, Matthew Sayre, and John Wolf. 2009. "La cronología de Chavín de Huántar y sus implicancias para el Periodo Formativo." *Boletín de Arqueología PUCP* 13:87–132.
- Rick, John W., and Katherine M. Moore. 1999. "El Precearámico de Las Punas de Junín: El Punto de Vista Desde Panaulauca." *Boletín de Arqueología PUCP* 3:263–96.
- Rosas la Noire, Hermilio. 2007. *La secuencia cultural del período formativo de Ancón*. Avqi Ediciones.
- Rowe, John Howland. 1959. "Archaeological Dating and Cultural Process." *Southwestern Journal of Anthropology* 15(4):317–24.
- Rowe, John Howland. 1960. "Cultural Unity and Diversification in Peruvian Archaeology." *Men and Cultures: Selected Papers of the Fifth International Congress of Anthropological and Ethnological Sciences* 627–631.
- Rowe, John Howland. 1961. "Stratigraphy and Seriation." *American Antiquity* 26(3):324–30.
- Rowe, John Howland. 1962a. "Stages and Periods in Archaeological Interpretation." *Southwestern Journal of Anthropology* 18(1):40–54.
- Rowe, John Howland. 1962b. "Worsaae's Law and the Use of Grave Lots for Archaeological Dating." *American Antiquity* 28(2):129–37.
- Seki, Yuji, Juan Pablo Villanueva, Masato Sakai, Diana Alemán, Mauro Ordóñez, Walter Tosso, Araceli Espinoza, Kinya Inokuchi, and Daniel Morales. 2008. "Nuevas Evidencias Del Sitio Arqueológico de Pacopampa, En La Sierra Norte Del Perú." *Boletín de Arqueología PUCP* 12:69–95.
- Shady, Ruth, and Carlos Leyva. 2003. *La Ciudad Sagrada de Caral-Supe: Los Orígenes de La Civilización Andina y La Formación Del Estado Prístino En El Antiguo Perú*. Lima: Instituto Nacional de Cultura.

- Silverman, Helaine. 1996. "The Formative Period on the South Coast of Peru: A Critical Review." *Journal of World Prehistory* 10(2):95–146.
- Strong, Duncan WM. 1948. "Cultural Epochs and Refuse Stratigraphy in Peruvian Archaeology." *Memoirs of the Society for American Archaeology* 4:93–102.
- Tellenbach, Michael. 1986. *Die Ausgrabungen in Der Formativzeitlichen Siedlung Montegrande, Jequetepeque-Tal, Nord-Peru*. München: Verlag C.H. Beck.
- Tello, Julio C. 1943. "Discovery of the Chavín Culture in Peru." *American Antiquity* 9(1):135–60.
- Terada, Kazuo. 1979. *Excavations at La Pampa in the North Highland of Peru, 1975*. Tokyo: University of Tokyo Press.
- Terada, Kazuo, and Yoshio Onuki. 1982. *Excavations at Huacaloma in the Cajamarca Valley, Perú, 1979: Report 2 of the Japanese Scientific Expedition to Nuclear America*. Tokyo: University of Tokyo Press.
- Terada, Kazuo, and Yoshio Onuki. 1985. *The Formative Period in the Cajamarca Basin: Excavations at Huacaloma and Layzón, 1982*. University of Tokyo Press.
- Tsurumi, Eisei. 2008. "La Secuencia Cronológica de Los Centros Ceremoniales de La Pampa de Las Hamacas y Tembladera, Valle Medio de Jequetepeque." *Boletín de Arqueología PUCP* 12.
- Tsurumi, Eisei, and Lissete Acuña Sánchez. 2018. "Proyecto de investigación arqueológica: jancao, distrito de Amarilis, provincia de Huánuco, departamento de Huánuco. Temporada 2017. Excavación."
- Tsurumi, Eisei, Kinya Inokuchi, Yoshio Onuki, Nelly Castillo Martel, and Yuichi Matsumoto. 2020. "Excavations at Piquimina." Pp. 169–80 in *Prehistoric Settlement Patterns in the Upper Huallaga Basin, Peru*. New Haven: The Yale Peabody Museum.
- Tsurumi, Eisei, and César Sara Lepetto. 2017. "Proyecto de investigación arqueológica: Kotosh, distrito de Huánuco, provincia de Huánuco, departamento de Huánuco. Temporada 2016. Excavación."
- Uhle, Max. 1902. "Types of Culture in Peru." *American Anthropologist* 4(4):753–59.
- Washburn, Eden, Jason Nesbitt, Richard Burger, Elsa Tomasto-Cagigao, Vicky M. Oelze, and Lars Fehren-Schmitz. 2020. "Maize and Dietary Change in Early Peruvian Civilization: Isotopic Evidence from the Late Pre-ceramic Period/Initial Period Site of La Galgada, Peru." *Journal of Archaeological Science: Reports* 31:1–14.
- Wheeler, Jane C. 1988. "Nuevas Evidencias Arqueológicas Acerca de La Domesticación de La Alpaca, La Llama y El Desarrollo de La Ganadería Autóctona." Pp. 37–43 in *Llamichos y Pacocheros: Pastores de Llamas y Alpacas*, edited by J. A. Flores Ochoa. Cuzco: Centro de estudios Andinos.
- Wiley, Gordon R., Charles C. Di Peso, William A. Ritchie, Irving Rouse, John H. Rowe, and Donald W. Lathrap. 1955. "An Archaeological Classification of Culture Contact Situations." *Memoirs of the Society for American Archaeology* 11:2–30.
- Wiley, Gordon R., and Jeremy A. Sabloff. 1993. *A History of American Archaeology*. 3rd edition. New York: W.H. Freeman.

- Wiley, Gordon Randolph. 1971. *An Introduction to American Archaeology, Vol. 2: South America*. Englewood Cliffs, New Jersey: Prentice-Hall, Inc.
- Wing, Elizabeth S. 1972. "Appendix IV: Utilization of Animal Resources in the Peruvian Andes." Pp. 327–54 in *Excavations at Kotosh, Peru 1963 and 1966*, edited by S. Izumi and K. Terada. Tokyo: University Museum, University of Tokyo.
- Ziólkowski, Mariusz S. 1994. *Andes: Radiocarbon Database for Bolivia, Ecuador and Peru*. Warszawa, Gliwice: Andean Archaeological Mission of the Institute of Archaeology, Warsaw University.

#### 日本語文献

- 泉靖一・松沢亜生 1967 「中央アンデスにおける無土器神殿文化-コトシュ・ミト期を中心として」『ラテン・アメリカ研究』(8):39–69
- 井口欣也・大貫良夫・鶴見英成・松本雄一、アルバロ・ルイス 2002 「ペルー、ワヌコ盆地一般調査概報」『古代アメリカ』(5):69–88
- 井口欣也・大貫良夫・鶴見英成・松本雄一、ネリ・マルティル・カステイーヨ 2003 「ペルー、サハラパタク遺跡の発掘調査」『古代アメリカ』(6):35–52
- 今村啓爾 2011 「異系統土器の出会い—土器研究の可能性を求めて—」『異系統土器の出会い』今村啓爾(編)同成社、1–26頁
- 大塚達朗 2006 「型式」『現代考古学事』安斎正人(編)、同成社、105–9頁
- 大塚達朗 2017 「山内清男の縄文文化モデルの難点」『アルケイアー記録・情報・歴史—』11:83–116
- 大貫良夫 1998 「交差した手の神殿」『文明の創造力：古代アンデスの神殿と社会』加藤泰建・関雄二(編)、角川書店、43–94頁
- 大貫良夫 2010 「アンデス文明形成期研究の五〇年」『古代アンデス:神殿から始まる文明』大貫良夫・加藤泰建・関雄二(編)、55–104頁
- 大森貴之 2013 「暦年較正とベイズ推定(総特集 第四紀研究における年代測定法の新展開：最近10年間の進展(1)放射性炭素年代)」『月刊地球』35(9):509–16
- 加藤泰建 1976 「ペルー、ラ・パンパの土器分類と型式論」『民族学研究』41(3):268–73
- 加藤泰健 1998 「アンデス文明の起源を求めて」『文明の創造力：古代アンデスの神殿と社会』加藤泰建・関雄二(編)、角川書店、7–42頁
- 加藤泰健 2007 「先史アンデスの文明形成プロセス研究とクントウル・ワシ遺跡データベース」『先史アンデス社会の文明形成プロセス』平成 14–18 年度科学研究費補助金[基盤研究(S)]研究成果報告書、1–20頁
- 金崎由布子、ダニーロ・デバス、大谷博則 2019 「ペルー、ワヌコ盆地ピチャイコト遺跡代第一次発掘調査速報」『古代アメリカ学会研究大会第 24 回発表要旨』、7頁
- 狩野千秋 1982 「新大陸の鏡」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』1:167–98

- クブラー, ジョージ 2018 [1962] 『時のかたち: 事物の歴史をめぐって』中谷礼仁・田中信幸  
 訳、鹿島出版会
- 佐藤宏之 2007 「分類と型式」『ゼミナール旧石器考古学』佐藤宏之(編)同成社、15-31頁
- 芝田幸一郎 2011 「ペルー北部中央海岸ネペーニャ谷からみたアンデス形成期社会の競合モデル:  
 神殿、集う人々、旅する指導者」東京大学大学院提出博士論文
- 関雄二 2006 『古代アンデス権力の考古学』京都大学学術出版会
- 関雄二 2010 『アンデスの考古学』(改訂版)、同成社
- 関雄二・坂井正人 1998 「聖なる丘」『文明の創造力: 古代アンデスの神殿と社会』加藤泰建・関  
 雄二(編)、角川書店、95-162頁
- 鶴見英成、セサル・サラ 2016 「コトシュ遺跡第5次発掘調査ーミトの神殿とチャビンの神殿  
 ー」『古代アメリカ学会研究大会第21回発表要旨』、14-15頁
- 鶴見英成、リセ・アクーニャ 2017 「ハンカオ遺跡発掘調査ーアンデス文明形成期編年の精緻化に  
 向けてー」『古代アメリカ学会研究大会第22回発表要旨』、7頁
- 鶴見英成、金崎由布子、セサル・サラ 2019 「ペルー北部ワヌコ盆地におけるアンデス文明形成  
 期の神殿の研究: 建築の更新過程と土器編年に関する新知見を中心に」『日本考古学協会第八  
 十五回総会 研究発表要旨集』、78-9頁
- 東京大学アンデス地帯学術調査団 1962 「アンデス東斜面における形成期文化の研究: コトシュ  
 の発掘を中心として」『民族学研究』26(4):258-279
- 中谷礼仁 2012 「十九世紀擬洋風建築とG・クブラーの系統年代について」『文化系統学への招待:  
 文化の進化パターンを探る』中尾央・三中信宏(編)、勁草書房、85-118頁
- 藤井龍彦 1976 「中央アンデス・ワヌコ地域の石器文化」『国立民族学博物館研究報告』  
 1(2):272-304
- 松本雄一 2010 「ペルー、ワヤガ川上流域における形成期の再検討」『古代アメリカ』(13):1-30
- 松本雄一 2013 「神殿における儀礼と廃棄: 中央アンデス形成期の事例から」『年報人類学研究』  
 (3):1-41
- 三中信宏 2006 『系統樹思考の世界: すべてはツリーとともに』講談社
- 三中信宏 2017 「考古学は進化学から何を学んだか」『文化進化の考古学』中尾央・松木武彦・三  
 中信宏(編)、勁草書房、125-65頁
- 山本睦 2012 「先史アンデス形成期の社会動態: ペルー北部ワカバンバ川流域社会における社会  
 成員の活動と戦略から」総合研究大学院大学提出博士論文

(別紙1)

## 論文の内容の要旨

論文題目 南米ペルー、ワヌコ盆地の  
紀元前二千年紀の社会動態

氏名 金崎 由布子

本論文では、ワヌコ盆地の紀元前二千年紀の精緻な編年を構築し、地域の詳細な社会動態を明らかにすることを目的として研究を行った。ワヌコ盆地はペルー北部中央山地に位置する標高 2000m 程の山間溪谷であり、山岳地域と熱帯低地の中間地点に位置している。当地域は前二千年紀に山地・熱帯の両方の伝統が融合したような特異な土器文化が栄えることで知られており、アンデス文明の初期における山地－熱帯間の関係性を示すものとして学史上注目されてきた。当地域での考古学調査は 1960 年代の大規模調査以降しばらく途絶えており、編年研究の遅れが課題となっていたが、2016 年から新たな調査が開始された。そこで本研究では、2016 年から 2019 年にかけて行われたワヌコ盆地の考古学調査の成果をもとに新たな編年を構築し、前二千年紀のワヌコ盆地の社会変化のプロセスを考察した。

本論文は全 8 章で構成される。第 1 章では、研究の背景となる中央アンデス地域の編年と地理、および前二千年紀のワヌコ盆地の特徴について概観し、研究の目的と方法を論じた。前二千年紀は、土器の導入とともに新たな建築伝統が各地で成立し、地域社会の発達と地域間交流の拡大がみられる時期であり、北部アンデスや東部のアマゾン地域との交流の痕跡が増加する。したがって、ワヌコ盆地の前二千年紀の社会動態に焦点を当てることは、山地－熱帯間の関係の発達プロセスや、外部社会との交流と在地社会の長期的な発達との関係の解明に貢献する。

第 2 章では先行研究を概観して現状の課題を整理し、本論文の位置づけと方法論を提示

した。本研究では土器編年の構築方法として、土器の形態学的特性の漸次的変化から時系列を推定する系統セリエーションの方法を導入した。土器の分類システムは従来の全土器片を対象とした属性分析にもとづく分類ではなく、器種－形態/文様という階層分類を適用した。このような型式学的分析と発掘調査による層位学的知見、年代測定結果の相互検証を通じて、精度の高い編年が構築される。また詳細な土器編年による層位の新旧区分を制約条件として、ベイズ推定を用いた年代解析を行うことで、考古学的状況を反映した高精度のモデル年代が得られる。

さらに本研究では地域間交流の具体的な様相を捉えるため、土器スタイル論に系統学的アプローチを導入した。ジョージ・クブラーの「系統年代」概念を参照し、器種組成と文様の系統構造の通時的変化を各系譜的要素の動態から捉えることで、知識・技術の伝達における製作者間の交流形態のあり方や、既存の製作伝統に影響を与えた諸種の実践パターンの変化に接近する視点を提示した。

第3章では近年の調査成果をもとに、各遺跡の建築の通時的変化を明らかにした。2016年・2018年に調査されたコトシュ遺跡では、1960年代に発見された建築の最上段にあたる各時期の建築が発見され、早期最終期から中期まで5時期の建築シーケンスが明らかにされた。2017年に調査されたハンカオ遺跡では、遺構の検出はわずかであるが、詳細な型式学的分析によって形成期前期・中期に相当する6時期の異なる堆積の存在が明らかになった。2019年に調査されたビチャイコト遺跡は、丘陵上に円形/隅丸方形の基壇が建設され、基壇は一度更新されていた。また丘陵頂上の窪地では炉群が形成されたのちに埋められていた。当遺跡はこれまで調査された各遺跡とは異なり、形成期前期の比較的短期間に利用され、機能を停止したと考えられる。

第4章では、上述の調査により得られた土器資料と先行研究のデータを総合し、体系的な型式学的分析によって新たな土器編年を構築するとともに、系統学的アプローチにより土器スタイルの変化のプロセスを考察した。ハンカオ遺跡ではWJ-I,II,III,IV,V,KT-Iの6時期の土器編年が設定された。コトシュ遺跡ではWJ-IV,Vの時期が同定されたほか、KT-Iに型式学的に後続すると考えられるKT-II期が設定された。ビチャイコト遺跡ではWJ-IVのみが同定された。

ワイラヒルカ期前葉(=WJ-I)は無文の無頸壺類のみから構成され、近隣の山岳地域とよく類似していた。ワイラヒルカ期中葉(=WJ-II,III)では無頸壺、鉢、ボトルという基本の器種が出揃い、弧状文を主とする在地の文様系統が発達した。この時期のボトルは近隣の山岳地域には見られない橋付きボトルであり、熱帯低地との関係が示唆された。ワイラヒルカ期後葉(=WJ-IV,V)になると器種が多様化し、鉢類を中心にZoned Hachure技法が隆盛した。熱帯低地の伝統と共通性のあるZoned Hachure技法による幾何学文は、凸底鉢・内傾鉢と結びつきが深い。技法自体は閉口鉢・浅型鉢・広口壺などの器種にも導入され、比較的単純な文様が施された。また前時期まで無頸壺・鉢ともに主体的であった在地の弧状文系統は、この時期には主に無頸壺に適用され、文様は簡素化した。コトシュ



期では、Zoned Hachure 技法と関係の深い多くの器種が消滅し、無頸壺は無文化した。前時期の特殊鉢の後継と考えられる外反鉢では、太い刻線による幾何学文様および人面文が発達した。

第5章では、各遺跡の放射性炭素年代測定データをベイズ推定を用いて解析し、各遺跡の利用時期を推定するとともに、新たな地域編年の年代観を提示した。その結果、ハンカオ遺跡では WJ-I 期：1740-1665 cal BC、WJ-II 期：1545-1480 cal BC、WJ-III 期：1435-1380 cal BC、WJ-IV 期：1310-1245 cal BC、WJ-V 期：1160-1065 cal BC、KT-I 期：990-945 cal BC のモデル年代が、コトシュ遺跡では WJ-III(IIa)期：1535-1470 cal BC、WJ-IV 期：1355-1215 cal BC、WJ-V 期：1130-1045 cal BC、KT-II 期：885-835 cal BC の年代が得られた。また、ワイラヒルカ期前葉は前 1800-前 1600 年頃、ワイラヒルカ期中葉は前 1600-前 1300 年頃、ワイラヒルカ期後葉は前 1300-前 1000 年頃、コトシュ期は前 1000-前 800 年頃と位置付けられた。この新たな年代観により、周辺地域の編年との対応関係が見直され、これまで形成期前期の典型的な土器スタイルとされてきた「ワイラヒルカ土器」は、実際には中期前半に相当することが明確になった。

第6章では新たな地域編年にもとづき、各時期の遺跡分布と立地の利用形態、およびワヌコ盆地と外部地域との地域間交流の通時的变化を考察した。踏査データの再検討から、ワイラヒルカ期中葉までの遺跡分布は、ミト期から利用されたと考えられる河川合流地点付近の沖積地の立地に限定されていた可能性が高いことが示された。またワイラヒルカ期後葉では、河川沿いの丘陵上という新たな立地に遺跡が出現し遺跡数が増加するが、コトシュ期には再び長期の利用のある立地でのみ建築活動が継続した。さらに、長期の利用のある遺跡でも機能停止と再利用が繰り返されていた。次に各時期の建築について、ミト的スタイルの部屋と「埋葬型」の建築の更新は一部の遺跡でワイラヒルカ期前葉まで続いた後停止し、次の時期では比較的小規模な建築活動が行われた。ワイラヒルカ期後葉になると、円形/隅丸方形の基壇と上部の連結部屋という新たな建築スタイルが生じた。コトシュ期の建築は前時期との連続性が見られ、建築の更新時に墓の埋め込みが新たに行われるようになった。

第7章では、これまでの内容をもとにワヌコ盆地の社会変化のプロセスを考察した。ワイラヒルカ期前葉（形成期早期末）には地域に土器が導入されたが、一部の遺跡でミト期の建築伝統が継続していた。当地域の土器の導入はミト期的な社会システムの中で生じた現象と考えられ、当時の土器の希少財としての価値が、初期の土器の拡散に寄与したと想定される。ワイラヒルカ期中葉（前期）ではミト期的な建築慣行が見られなくなり、代わって遺跡周辺住民による比較的小規模な公共活動が行われた可能性が高い。また土器の様相から、当時期には土器の利用範囲が拡大するとともに、基壇建築での饗宴活動と関連して東斜面・熱帯低地との関係が段階的に発達したと考えられる。ワイラヒルカ期後葉（中期前半）では、以前から利用のある場所だけでなく、それまで利用のなかった盆地内の各地に基壇建築が建設され、長期の歴史を持つ遺跡群と短期の利用のために新たに作られた

遺跡群という二分が成立した。これは基壇建築での活動を通じて新たな社会紐帯が生成され、周縁部が地域システムの中に組み込まれるとともに、ミト期から利用が継続した各遺跡の位置する場所が中心性を帯び始めた可能性を示唆する。また土器は前時期から大きく変化し、東斜面・熱帯低地と共通性の高い新たな器種・文様・施文技術が広く導入された。このことは当時期にこれらの地域から直接的な知識・技術伝達があったことを示しており、異なる地域集団間での直接交流の場が形成されていた可能性が高い。このような交流が宗教イデオロギーの相互浸透や儀礼実践の変化につながり、地域の社会システムの変容を促したと考えられる。コトシュ期（中期後半）では長期の利用のある遺跡でのみ活動が継続された。また建築の更新における墓の埋め込みや葬送儀礼を通じて、特定の個人や集団がこれらの場所と象徴的に結びつけられ、特別な地位に置かれ始めたと考えられる。このことは、前時期に生成した集団関係が新たな儀礼慣行によって強化され、社会階層化につながるような集団関係の不均衡が成立した可能性を示す。一方で土器や交易品の様相から、熱帯低地との関係は依然重要であるものの、中期後半に台頭したチャビン・デ・ワソタル遺跡を中心とする経済-宗教複合システムの影響が生じ始めており、後期の「チャビン・ホライズン」の在地的受容の下地が形成されていたことが示唆される。

第8章では前章までの議論から本稿の結論を提示した。前二千年紀のワヌコ盆地と周辺地域との関係は固定的なものではなく、熱帯低地との関係は近隣の山岳地域との関係の変化と関連しつつ段階的に発展しており、当地域の各時期の社会システムは、地域間関係の通時的変化と相互に関連しながら発達したことが示された。